

令和7年度 大分大学総合型選抜入試問題

小 論 文

(福祉健康科学部)

福祉健康科学科 理学療法コース

解答時間 60分

配 点 100点

注意 解答はすべて解答用紙に記入すること。

令和7年度(2025年度)
大分大学福祉健康科学部 総合型選抜入試問題
福祉健康科学科 理学療法コース

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

陽気をもたらす動き方

江戸時代の末期、日本を訪れたある宣教師が、日本人の陽気さに感動したという話がある。子どもに限らず、大人まで町ゆく人はみなよく笑い、非常にいきいきとした振る舞いをしていたそうだ。

辞書を引くと「万物が生まれ出て活動しようとしている気」のことを、本来、陽気というのだそうだ。当時の日本人はまさに生命力で溢れかえった陽気な人が大勢いたのだろう。

ひるがえっていまの日本はどうだろう。

陽気とは正反対に陰気な顔をした人のほうが、圧倒的に多くなってしまったのではないだろうか。

夜の通勤時間帯の電車にたまたま乗り合わせることがあるが、「嫌な仕事はやっと終わったよ」といわずばかりに疲れきった顔をしている人も少なくない。仕事が楽しく、やりがいのあるものなら、もう少し晴れ晴れとした顔をした人がいてもよさそうなものだが、そんな人はほとんどみることがない。

日中はきつと感情を押し殺し、つまらないと感じながら仕事をしている人が多いのだろう。

陽気とか陰気といったものは“気”なので、空気を通して伝わりやすい。陽気な人は周りの人を陽気な気持ちにさせるし、陰気な人は反対に周りの人を暗い気持ちにさせる。

江戸時代の人々がもっていた陽気さの半分でもいまの人にあれば、社会に蔓延している空気はぜんぜん違うものになるに違いない。

それにしても、なぜ外国人が絶賛したほどの陽気さを、日本人は失ってしまったのだろうか。

一つには日本が激しい競争社会になってしまい、心の余裕がなくなってしまったことが大きな理由として挙げられる。

あともう一つは、体を使わなくなったことが大きな原因だと思う。

たとえば江戸時代の人々は、農業や漁業といった第一次産業の従事者ばかりで、みな体を日常的に使って生きていたであろう。商売をやっている町人にしても、現代の商売人に比べれば重搬や仕入・搬出なども含め体をかなり使ったはずだ。

体を動かすと不必要な思考がなくなり、そのため感情の流れもよくなる。

陽気というのは感情の通りがよくなり、前向きな気持ちにならないと生まれてこないものだ。

しかし、多くが頭を使う仕事に就いている現代人は、仕事で体を動かすことなど、ほぼない。体を動かすとすれば、せいぜい仕事を終わった後に軽くジョギングをするか、週末にスポーツジムに行くくらいだ。

脳みそに^{しつ}皺を寄せて損か得かの計算をしたり、自分についてあれこれ考えてばかりいては、陽気さなど生まれようもないだろう。

陽気な人は実際よく動く。よく動くから視界も広がって明るくなるのだ。かたや陰気な人は動きが少ない。動かないから視界が狭くなってますます暗くなってしまふのだ。

陽気でない人は、動くということを積極的に日常生活に取り入れたらいいと思う。それによって視界が開け、感情の通りもよくなれば、陽気なものが少しずつ出てくるかもしれない。

前からよくいっていることだが、私は^{いさ}粋というものがとても大事だと思っている。じつはこの粋と陽気とは密接な関係があるのだ。

粋を私が大事に感じるのは、人の悪い感情や思考の一切がそこからは除かれているからだ。食欲、自分勝手、計算、後悔、^{うら}恨み、^{わた}妬み、^{かそん}執着、不遜……嫌だな、恰好悪いと思うものすべてが粋のなかには入っていない。

粋な身振りや仕草のことを「江戸仕草」というくらいだから、江戸の人間はこういう粋を身に付けていたのではないだろうか。その頃の人々がみな陽気にみえたのは、そのせいでもあったかもしれない。

陽気というのは、いきいきとした「活き」から生まれてくるもの。生命に活きがあれば、体は流れるように動き、感情は滞ることがない。そこから生まれる振る舞いは^{まよ}凝みがなく、優美で「粋」なものとなる。

陽気さと粋の間に密接な関係があるといったのはこうした理由である。

少なくとも陰気なものから粋は生まれえない。いまの人に陽気さがないということは、世の中が^{ぶすい}無粋な人だらけということでもある。

陰気な人が、いきなり陽気になろうとしても無理がある。

しかし、陽気でない人が粋をめざすことは可能である。もし粋が身に付いてくれば、結果的に陽気な雰囲気^{ふんいき}がそれに伴って出てくると思う。

粋の精神から学べるものは少なくない。

粋を意識して振る舞うことは、無粋といえど無粋だが、無自覚に無粋であり続けるよりは、よほどいいかもしれない。

(出典：桜井章一、『新装版 感情を整える』,株式会社PHP エディターズ・グループ, 2024年より抜粋・一部改変)

問 下線部について、筆者の考えをまとめ、その上で、現代社会において、粋を身につけるにはどうしたらよいか、あなたの考えを600字以内(句読点を含む)で述べなさい。